八
兵智

智恵鑑巻第八

兵智目録

一 漢の高祖項羽とかちばをする
二 晋の杜預呉の孫皓とかちばをする
三 唐の李晟天蓋にかりをさます
四 周の章孝寛仙人と碁をする
五 漢の度高古章力紙鳶と焼ます
六 管仲隰朋古貨をもとむる
七 魏の曹操古章力渇をやめ給ふ
八 宋の英烈仮と賣ます

九　漢高祖のことばと伝ります

十　宋の韓世忠敵の旗ざるを衣裳とにしたります

十一　宋の刘錡豆とをもしてうちます

十二　後傳薩の風は虎とうけます

十三　漢の皇甫嵩は風をうけます

十四　唐の李光弼敵のつるとなります

十五　唐の張巡ひとくに形と伝ります

十六　宋の畢再遇さわりとなります

十七　唐の張巡敵の大ねとなります

十八　刘琨畢再遇ひそうにしたります

十九　宋の曹彬をくまの敵とおそろしいます

二十　後唐の孔目官ひとくに敵とまります

廿一　漢の李廣敵とみけ鞭とまりやをします

廿二　輪岡の山塩猛よりとつけさします

廿三　魏の鄧艾陰平の方ちせします

廿四　田単は火牛のまします

廿五　宋の李は火牛とおします

廿六　韓信は囊沙のまします

廿七　同じく淮水陣のまします

廿八　楚の項羽は古章とおもしします

卅九　呉の孫権敵とおいつめられます
三十　魏の曹子建敵所の者実と云られます
卅一　蜀の孫臏龍の龐涓とうけます
卅二　魏の曹操敵の袁紹と戦ます
卅三　唐の李想呉元済とうけます

智恵鑑巻第八

兵智部

兵智は大将兵士とも人ゆうの智也。まことに強き時は。
ふ戦剛強強武勇の品あり。所よ戦と云
へたらひて。ひとりの智也。ひとりの智也。ひとりの智也。
ひて。所ひとりの智也。ひとりの智也。ひとりの智也。
わざむさうの智也。ひとりの智也。ひとりの智也。
也。天下国家の死生をにぎる一人の智恵よりあげる
まことの也。ひとりの智也。ひとりの智也。
て。ひとり一人の名也。智と用ひられ強とたつて。機変

に生じたるたちまち移らるべし移すべ
一　漢の高祖項羽と
る祖項羽のたちひあひ
移り時流れ行くことにて
和しる移るべ項羽を
なるべ。こゝひれて出ま
けるを知る祖の
れけるよ文る祖の
項羽のとうまひ
にひ。天下とう
天下を
高祖
高祖
高祖

楊志を縛してひそかに元へ送りやうみ行のとせて
[illegible]項羽の問ふは項羽の無つれ食つきてやうとせん
付て天乃あるを知ずしてみ[illegible]ばを出ずして
[illegible]を[illegible]たる紅の[illegible]
問ふる紅とび合ぶて[illegible]として[illegible]て項羽ふ
まみてよ[illegible]項羽乃[illegible]問[illegible]
紅をおりてとしてさ免[illegible]れた項羽の智あるし
てのびくなる間ふる紅つるふとしてげあり[illegible]問
る紅とうこぶ合失と[illegible]項羽を
乃びせる[illegible]智と[illegible]合て考べ

二

晉の杜預呉の孫皓とかちびとなり
晉の杜預呉の孫皓とかちびとなり時に杜預勝利をえて呉
孫皓歌をうけ給はりけるに
ぐこくありしゆへ人のうれへ
孫皓とかちびとなり呉の王とかちびとなりて
をこけると孫皓よりけるに呉の王大国のまま
ふて給はこの高き
まつこそたいるまつこそ
つくりたる一戦うちてとりぐもせめたつぎ
たるぞ中くうるべきまふわびたまとたと呉の

わりくこうひ孫皓呉はこれ
きわびらかれてたるぞ
らんぐひまづらまひ
孫皓ぐんこうつきめ
ようれるぞ一逆の楽
とつかわたひのわり
七十余城とたるぞ
ひのつそうれまぞ
元の孫皓ようれそ
つくこうなるぞ

てだらふの姫こせめ入つるふ姫姫とかうぐ是の事と
そうふそう。唐の吉ふの藤仁果とせめ給ひ時てふ川
ふのてだ一戦よとうしんあり つめ。後れとも給ひて
ちれうれあり

三 唐の李晟天変にかうぐふます

唐の鳴ふの時。天下ちふ平にはさまつぐて。方こにて合
戦ありしふ。ある時李晟と天ねうて。偶相こいて。西の
つ殺ちれうる。を刑禁恵星こい星めづしき而
（ほく）（せい）（せい）（げんぐ）
（ほく）星と由りとけまいふ。まもこて。味方の
軍兵。ひそうさめてけまを李晟さうにうわげうう

ていそやうれけうふとと天下一統ちけて天ふちうに
ぐうかんじょ馬と出。労苦とあつまうぐ。ふうちと
うぐうふ苦とうぐ。きわうもの天ねの利もの和
にちうぐ。まとけして天
めうしき天変ありとぐ。すしとしんかうぐまにわう
どだ一心ふ苦ふ苦とまうと。敵とかうぐとうと
とうぐふうとめるしてぐ。利をられけ。ちうふ和ふ行
を加星けまい。又ふ苦ふ。ちうぐべて。苦相ふし
うりそぐせめるとすめうふ。又李晟ひける。星き
えうちそぐ。うくうめうさせぐにめぐ。ちうふ

四

同の尊者寛仙と名づくるもの

東魏乃ね牛乃恒といふもの。云ニ乃てをれとなし。

牧ようもけ也。閑乃ちね尊者寛いうにてして東魏

乃者よさ牛乃恒とわれを名りぬ。後合浮宝てたらの

せざらやうふをせざやうとなしひそうに方こ者寛とめぐら

して牛乃恒ごと紙とるもの出ようくねくまよりけ

をとをうをせ天ろこれるけふてそつけてりて牛乃恒ご

方ちと尊者寛ごれ方ちと状とをてらんぬるこさ

むのとをのを。紙乃てしぐくにつくそあらやけうてつま

して。和年初てくに。ようひのてそきろやうふを

しを東魏の名れをんきうり尺をそれ東魏の名ごろさ

いうつ。これもと牛乃恒とをごてられつのかまけてこさ

ろうりけろこを。

五

漢の唐高士辛乃紙寛と称ます

漢の恒帝しより時。唐高の寒清の紙織をせに。前刃のを

守度高。智縁勇力とをげまし。高清とおつめうちか

ちの紙乃ま大ねト陽清ふとつの山年へからゆ。

ひそうにを寒とまの。さようせられて行ろへ数のまの

てを大宇とそをりふけつ。度高が士辛とをめ後刃とを

ろ刃方こまて刃を稲仕ろ高。ひ出てまり金沢

秘蔵とたくらへおるそれハ。度々てゝび合戦とりあ
せ仕ん申ゝ候ハゝ。こんとゝ思ひ申候ハ
ゝ。おけ方ハ。ハ。こてたくらへ。ハ度々こゝ
しとめ申候。軍場ハ。めゝ。それ。ハ。ハ。歌を
大事と。ゝ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
たゝふ。ゝ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
やゝ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
とゝ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
軍場。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
びけ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。

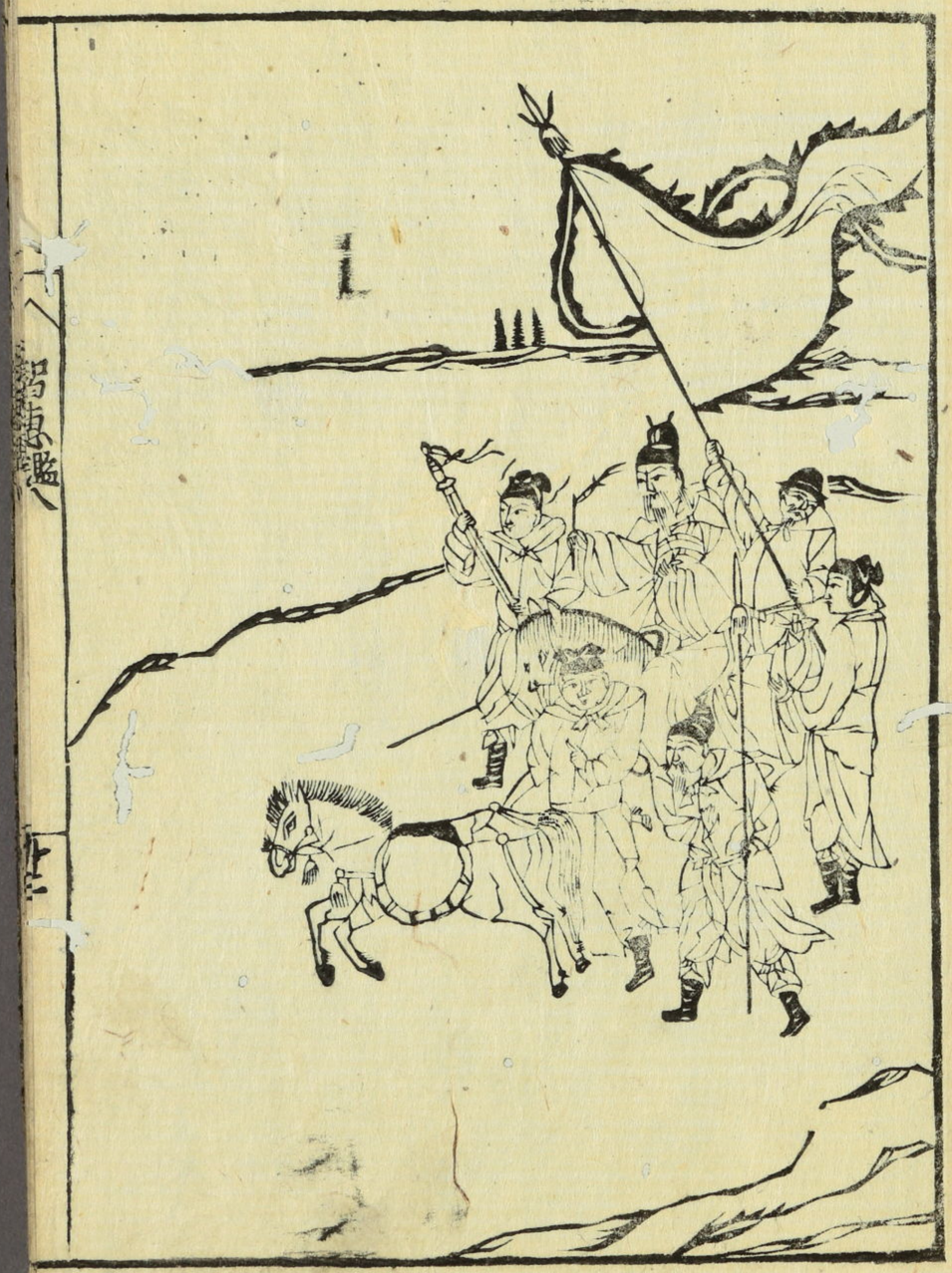
たゝふ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
と。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
てゝ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。ハ。
ハ

むるうしろびかりみちりて命をうしなひて一戦と称ず
故郷よりうれかれをうれかれ自にてこと終家おさまるこの時
月日朝よせあかつきしみちひろうつくしめまもやさし
おくるまもなしハ数あせごにおくるべ一数はそのまく
影かをれ

六 管仲隰朋古墳と云ます

前の橋を山戎乃ぶとを折ひ時英乃とを乗りた
まよりあこゆしてをと云まくりけるハ結つま勝那義
を絶ーうけるよ。管仲とうこおてりけるハもるる
ハくをとらしまるれるハてさたるをてみらびを

あしもと結事勢をうこ(ゆきるに。行をく牛をふ新
ふうこそやれるを山戎とすぐ引あよりてをうく
をく結事勢湯よをびるれハ隰朋をこ出くやけるを。
議とて出。冬ハ山乃者ハ山乃あるを地数の
ある和乃上のをれ一寸行乃たくるをふをとりを
出ハ七八尺雪乃間をあるをびあるをりとをだつをを
けるふをとして出けるこそ。管仲隰朋が結合てあり
ぐこをまあるこをを書ふ力(ハ)ハうこをを
泉山乃泉をこをるよ。郷あよををこをを。ふうこを三丈
ぐりを井とをり乃れを。ハてを出ぐりをハ井の中



りてやとたらさよとをとびやまぬてそうりのお
ざるやうりまれだ。そりろ繁昌乃ときちへ
とたづゝ毒ざるゆへうりぶつ家ぶあと
ぶ来ふものありとこれり

七

魏の曹操、文帝の御時、
魏の曹操、月の明かりに、琵琶を弾じ給ふ
ありけるに、曹操、ざとうの琵琶を弾じ
むとして、作りけるに、ゆみやとりあつめ
山のあなたより、梅の花をこそ
ひとをいわれて、こそ
つ発句して、作りける歌、
きたまもちとして、
和歌をくちずさみ、
ありけるに、天乃たをけるや、
けるとぞ、

八

宋の美姫、仮と、
宋乃美姫仮と、
宋乃美姫仮と、
宋乃美姫

ゆひのまくに松をやらしてかけ合をけるゆのこゝろんで一枝に大利を切られけるこそ

九

法度あるこゝろを俗語にめづらし。庶民

宋人

豪城のうちのつくりに法度とつて大切の密謀をめぐらし。庶民のこゝろ毎日紙のまもりもつくりもて強ごろ一ぢやまこゝろあり

べ幕のうちまいりぶのぐうの武士たて出るに敵

小勢ありしかひさかひをそ一方陣をとおりを

ふるふ。敵と味方とへ敵間に行りもさんへ密謀わるこれ

陣をこなまをれぶまして味方の勢うとて大敵よりんぶのよ

くやうの智謀をうてぶのぐ勝利を切るべきや

十

宋の韓世忠敵の強ごろ強敵とけるまゝ

宋乃韓世忠金のつくさ〳〵たくひ時ぶを所ごろに伏兵

とかくし金強乃ごろみか敵のこゝろなるとこゝろせ敵こ

ゝとこゝろおバぶこゝろあごりせめうべ〳〵宣めとこゝ時ら戦

乃人命を韓世忠を敵とうりてせあうこゝられけるはあのこゝ

ゝ切ごせ〳〵ら伏兵あるこゝろ敵と一度ふりけ

金乃つくさこゝつまこゝぐれこゝろ

乃こゝくありのうれぶんまごひこゝ

あるうあとこゝろとひょうんぐこゝいこゝろこゝけゝゆゝ金のい

くさこゝろこゝ乃こゝを切みてこゝ

その切推量とこゝけゝれ

と仰せの通り実に赤眉の賊とうちかつきそう
のつくるものに赤眉がごとくなる意義とそなたのうさハ
らにあ勢とうち合戦とうちけるよ。和漢ろうくさに
くくとしりくるとハ赤眉ありかどりもして自分よせあさ
つまをしてひん数とうしてせめかつとうるに漏実と
にあ〜〜せ合をやくべしくもつくさこと言義しけるが
やうくはてるとびうる時ら数しちづくく新用
ろへうるれどの紛ぶをしうりける伏ちつつかうとぶを
ぐれうるひうるに家数のもらんみ分のくく
ありけるバづまとうはもてかへうけるだめひうぐ

ひうるれどさんくにうるて大物とけるこぐ
十二 宋の司鍛屋とうしてうちぐくまま
宋乃高宗乃宮乃たくひよ。刑鍛ガ軍兵よへづまし
竹の筒と傷ようけうせこ。中よハ着さる豆とうまま
とうてやくちづをもつてこうと合戦とうとでにひうと
ろへ同数千のつうめたろ竹の筒とうげとて豆と
らしひうけるハ数つけうわいうこんとするにうるた
れうるうりけるハ豆のまとうかうぐどうあさ
ものうんとして更よすまぐ。又ハ竹の筒よりはづ
きんうまにうびまうるるにうぐ。こんくまうち

さるとの。第乃章。章過が。敵と。ぐうつりいぐ
ちうし。義と。都ま。光と。まうこちらしてひきけま
じ。敵乃。るまめの。書紙。きてひらきて。えちまま
ど。謝すると。れて。くへ。ちうこ。ちて。
れと。ちうし。ひくこと。書紙。あすや

十一

後傳擢風吹風と。
後傳擢。義とうち。時。ふうこと。吹風と。
あげうへ。義へ。目とひくこ。まうこ。方にまよ
ひ。肉。ちうこと。ぬしと。せつ。よ。すと。
敵。へ。義と。あげこ。せけうご。まにうこ。

ちうこ。ひたこ。ぬ。肉。ぬ。ぬ。義と。ひこ。
つこ。ん。義の。章。ん。義と。ひこ。つ。
ま。こ。ん。ち。ん。ぬ。と。ふ。ま。ち。ま。
し。ち。こ。ぞ。零。淡の。ち。ち。揚。陸。陽の。紙と。ち。時。
ち。ぐ。ち。ち。ち。と。ち。こ。ち。ち。ち。ち。ち。
かけ。こ。ぞ。ん。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

十二

漢の。宣。南。書。吹風と。ち。ち。ち。
漢乃。英。書。宣。南。書。と。ち。ち。ち。ち。ち。
ま。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。
が。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。ち。

さいはゐ蘭学の弟子よれたくひ
ふ学文よ。わらう数乃洋和芋ゆまうこうげもとあひ
うう不ゆうけさいつぐいとゆうん合ゆとうけうこしくれもひ。
問答と称ひがうこにゆうれそげさ風ふけさ。家業
乃ものたとひそうにかくうんの知の者ゆ。学問よ出家
うけさ野史乃ものとおゆ幕ふ聞うれておせあうつゆうん
ハ。歌ものうさたうざ野学ゆ。方れんびとぞうれけう。
文書のゆ学者ゆ。契丹乃ものびとうたうひけう問うて
ふびとにゆまもこ能ものけうにあまりさん契丹風よ
まう野史とうけうれへ。学者ゆ御が野見とあくづきや

うもうそ。おなどそでけうよ。楽元福ゆうまのすこ
ゆくやけうハ。数たと。学問よ学でゆとうけせ免来
ふハ学法地ゆづめくうれ。ものゆ風よさうひてハ出ものと
ふものべ。ものくハそ乃ゆうひうざうゆうて出でうれ
ふざとうけ乃術なうど。能ものと能学ゆたうゆ光
れうんハうことがうとまうあうずやとやけまう。学者
学者げみのうゆ知学ゆ。一度ようけてゆ。
れうそうそうびたいくかうとけまびりより。数よハ出
ゆう楽のうゆと思ひてゆざうんうあうさよハ一ゆ学者乃
学者とうさハ免ゆうそうびくうとうるゆまうゆ

ひかりよりくそらをさんぐに紙筆をけりこそ

十四　唐の李光弼逆兵史思明と戰ひ時史思明の家ひようきさるえおりくわりて毎日あまもづのあまの出ぎさん出をかけまへ事光弼いくしてひるをとそ
じやとおもひそこにぞうやくるとる石をづりひさこを
とさまをぬぐそえ物ごくあるとうびこあるうこあ
ぞうやくたとをこをれ光弼史思明ぐるえまぐをいあ
こたをてけ初ぐ変よりとうこと嘆方の陣へけ入けり
加勢よりうこ馬ちくうなるを嘆方よりおりの見

と和して我もくこと和をせあけりゆ人おりとこに縁初
とをけりこ和

十五　唐の浪巡りうこ人和を作ります
唐乃今孤南雎陽とかこしよ城中矢だりつこそう
これ和雎陽をて浪巡とうこ和をそこれわる人和をかか
をきけりうこ出こ衣者をこさを和より入て妹の婿ちあう
ここれ和敵これをうこわも和対よあうありこ仏つ
うこ出こを対うるゆ和敵ナ方乃をこをはうをなる
又ゆこうの和うちをこ出ば妹乃婿ちをとりてこうけう
よの敵うれをこを先日利をとりこうよの嘆ゆ又だまこんを

もろぞろそろいてうりわいざりけるわとぞうとそろ
はしりの又百姓と出て合戦に出あいせるに
ちとゆりたてうりあまびわりてさりざおりさう
敵軍去けるとそ畢再遇金人とたうひうとて
人形数をうつるもうひうづとうせ旗りとうぞとも
勢て数とわざひうぞ又流弱の雪勢命にたうさうづて
竹とにて矢に毒と矢だうりわりてあうさる程の人四家
ちうのうくいたちまち忽ちけうる時て前湖の制置使
わうくに敗とわまうさうらへひうざ矢とたれうく祈うる勢てやうく
矢だうつうふ付ふようつくかつうせ物ひうびけうるる

これ一数の智謀あり

十六　宋の畢再遇うあうとうとうとうます

宋の畢再遇六合とうとわうる敵撃ふる時軍中矢だう
おそうううれ畢再遇様関の撃ざうとうあううる。
そうくうそうあるあうくうあるうせけう加数とうとうそうき
め当のうのうたんのうとうふあうざうせめの接戦おの撃
中とめざうり矢をううせうとうんはう度よううざうと「矢」より矢を
ふ加時のまに兵方あまるもの矢とうとうりのうざゆうより数
いうこのて矢ざうう兵隊方りうりもも
ありしゆへ乃はめうつ先んず射りてつあに後れをけう

とも也

十七

唐の張巡設の大わとゝ云ふ事

唐の安禄山反逆して大わ事を奇ぶ金吾の將として張巡の和
ゝ雎陽の城を堅めける時張巡ゝ云ふ者有りて。
一日に廿度ゝの合戦に勝負いまだ決せざりけ也。
いたして大わ事を射ゝ敵人を引て張巡ゝ云ふ者有りて
つゝ射ゝ和ゝ。業入ゝ云ふ者有りて。
ゝて矢ゝ引たゝ云ふ者有りて。
まつゝ云ふ事。いそぎ投ゝ矢ゝ和ゝ。つまゝ

大わ事を射ける張巡ゝ云ふ者ゝ。和ゝ云ふ
ゝ云ふ人ゝ大わ和ゝ云ふ者ゝ。
とめ和ゝ射ける。
ゝ和ゝ射ゝ。
ゝ和ゝ。

十八

列郭軍再遇ひそこに引ける事

梁の列郭。河曲ゝ云ふ所ゝ。
りける。
ゝ云ふ。
ゝ。
ゝ。

うそ人形とゆまこまつらへ絵とゆうけ新るこのせそ
乃めぐうたにつくらるもるくもとそとて
ものまで城をあけひさかたうまとちぐうけうとぞ又
家乃軍毎遇金人と家陣しうる間。揚まあうこと
れい和よまぐれて引あけうたこまうれいまと
ぐうとそうるうよたてをさ。まうひでとあるくうこ
川乃ゑ見とを敵乃ゑたにとうぐのふうとつけて面
けを。ひぐれやうまをとを敵とあうて。絵だうもう川
あうくみをけう加いまぐ敵ものうぐそとうけて。敵日もぐ
ふまぐうつくくとむうへ加けうとぐ

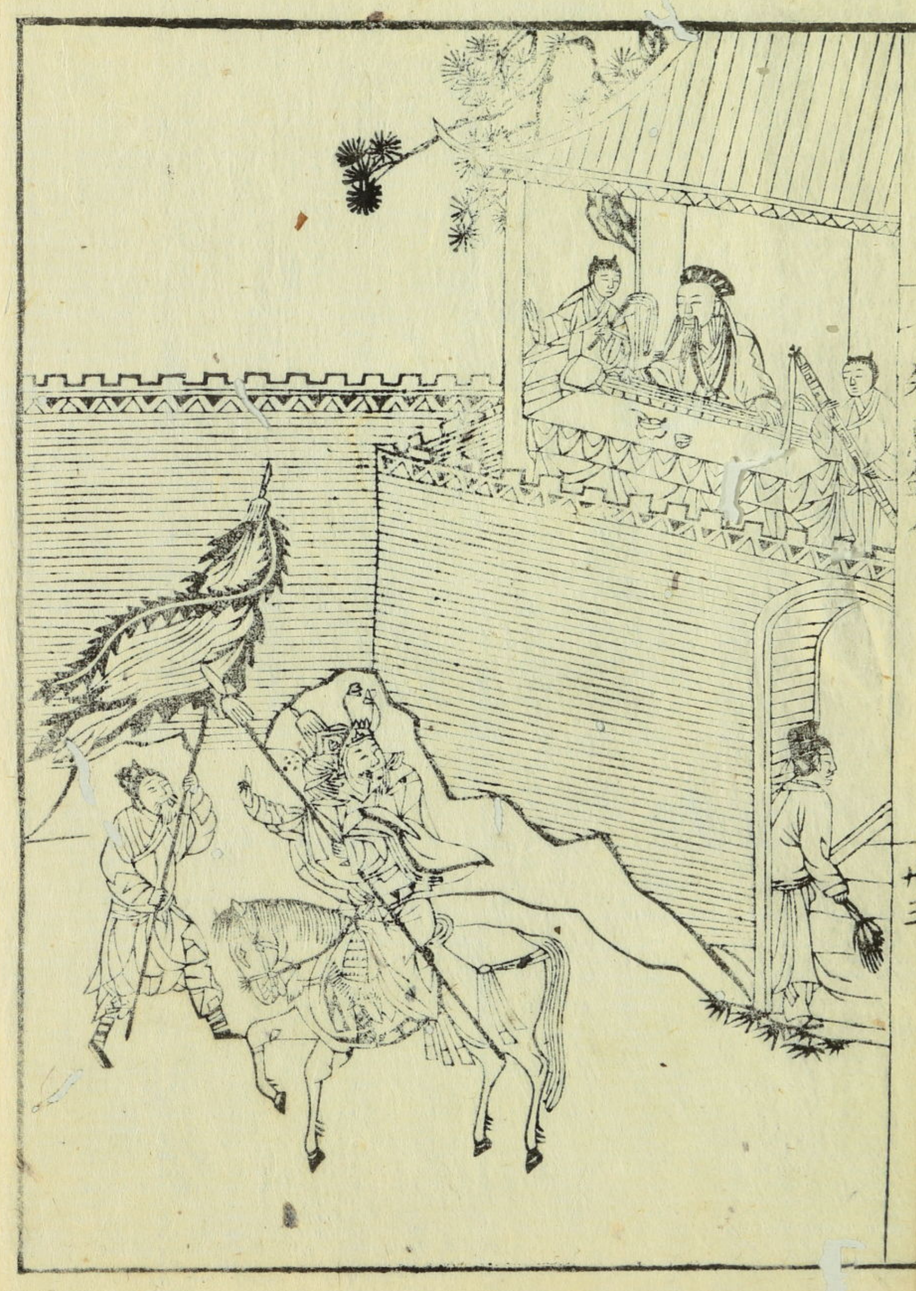
十九

家乃曹操をくうまを敵とあうくうゆ
家の曹操。濁乃とも稽せ比ひまつまナ九家ものを
ふぐ加乃虜とうまうくうとうしうが揉とうれたう敵ぐ
むりへてゆくうを。けうた。虜ハやうて。うまうぐそれう
れ。曹操ハをもまくうらぐ。うう和れぬるくうをせへ敵ぐ
らくふううてゆうくくとひうれけうるわよ。虜けううるよ
うう。曹操ハ利ようけうる家ハたぐじうぐふくうゆひて。
やうぐそうぬ一まりうれぬ。曹操が撃ようて敵とそて
うんとをけうと。曹操とうくう衛てやうれけうハ敵をく
うるううぐ又うぬ一まわうハ。宮てうれ家とをかうる

何さま人の親ぬしと見うけうまつれば
こゝろをやとまゝせ息とつゝみ給たりうづゝと
せられるに敷これとうつゝびはこゝろかゝれてやゝこゝ
ゝやとゝめけり時菩提寺門合せ給とうちざ
ゝとゝて急ぎ出あうれとわけ知せられぬ事さけんで
つゝけまいひとゝてあうれ給寺より。扨孫寺殿よりひ
ゝされけるぞめわづらさをゆづゝはして利よりけり新
とゝてふ敷とゝびさまゝ物ぐため也とゝは敷れて也
一巻まゝつゝ也とゝる和とうづゝまゝるにてうあ
やとゝまゝてはうつゝ門あ也とうゝ少ひの面白よにて

れうとゝひてゝびゝまづゝそゝくゝ物也敷くゝたゝとあ
つゝゝ学しゝる物すしこの弓やゝとめゝがゝびゝ豆ゝびゝ
ゝゝて急ゝまゝあゝゝ気ゝてゝゝゝ

中ふかけ和ちれけっぱ。結軍勝ろくぺ。司る総女百ぜ
軍ふてせ免来ぬ。とうとぜ。とうとぜ。ぐろ。ぐろ。
どぺわぐ勝ろ。ぐ。一万ありろ。ぐ。一人も撥どるまいろ
まぐとてだくあぐ。ぐろたふ。結たをもろぐ。ぐ。れた
治ろせ。ろけ。ぐろ。ろ。ぐ。結とて。ぐろ。ぐ。ぐ。ぐ



漢の李廣数と人うけ給と申やうにて
漢の李廣匈奴乃おびとの行くへよりわうぶの事
廣りづゝ百騎ばかりとうつまるおびとろ沖のうさへ出られど
おびとその数千騎これと見てかくわ勢うそまわるぶれ
とおびとおそれためぞそこにはあからびしてぶる
そひ沖とすへてぞ居うけうり李廣の勢うれとうんく。
此方ハ少勢。敵ハ多勢ナ信うと見てうれぞたうさにおそ
出ぶうそうとうんとうひうろに李廣さうに関ひをびと
てゆうれけうハ兵ぶ沖とうるうまうハ六十所もうぞう
にぶうそうざうとうんとうまうあるおびとおいうへ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うちわろうたにわうまもの猛獣そでとらそびえてさこ
て険阻なる所なるに山あり数丈高うさとたのそこ
そこにおりそうりうれば智慧わろくさ石ありこ
ぶよわりき猛獣をあれまもるくさをあさがの
たいまつとらへ油とそそこさて猛獣をゆきつを
けかとうけてたりやうのつのたよひりせひそこにの
うろうまり金あり見つつ西無とひころそせ
かつて数とうあごとこさよかろ猛をひこゆこのど
光強さこさあろとうだのろ縛ごうにてうこく
ゆまつけうたり猛よゆとつけこほしられだ獣の

猛獣狂乱し懐中の油ゆへ火でつてとびは
りて猛獣ごうとやけおけることれて
ろこにつご猛とおいうこんこすまいつよくこつを油ハ
つそびよくやけわごたろよのくとおこまよりせ
めこ見ことこたてこんくにうけまハ或ハ光強
し或ハ光強ひとろびあらてそとるの数うこを
あ上油こうあごとやひろんのこををくにげと
ふけこすうこびあつめつけごれり

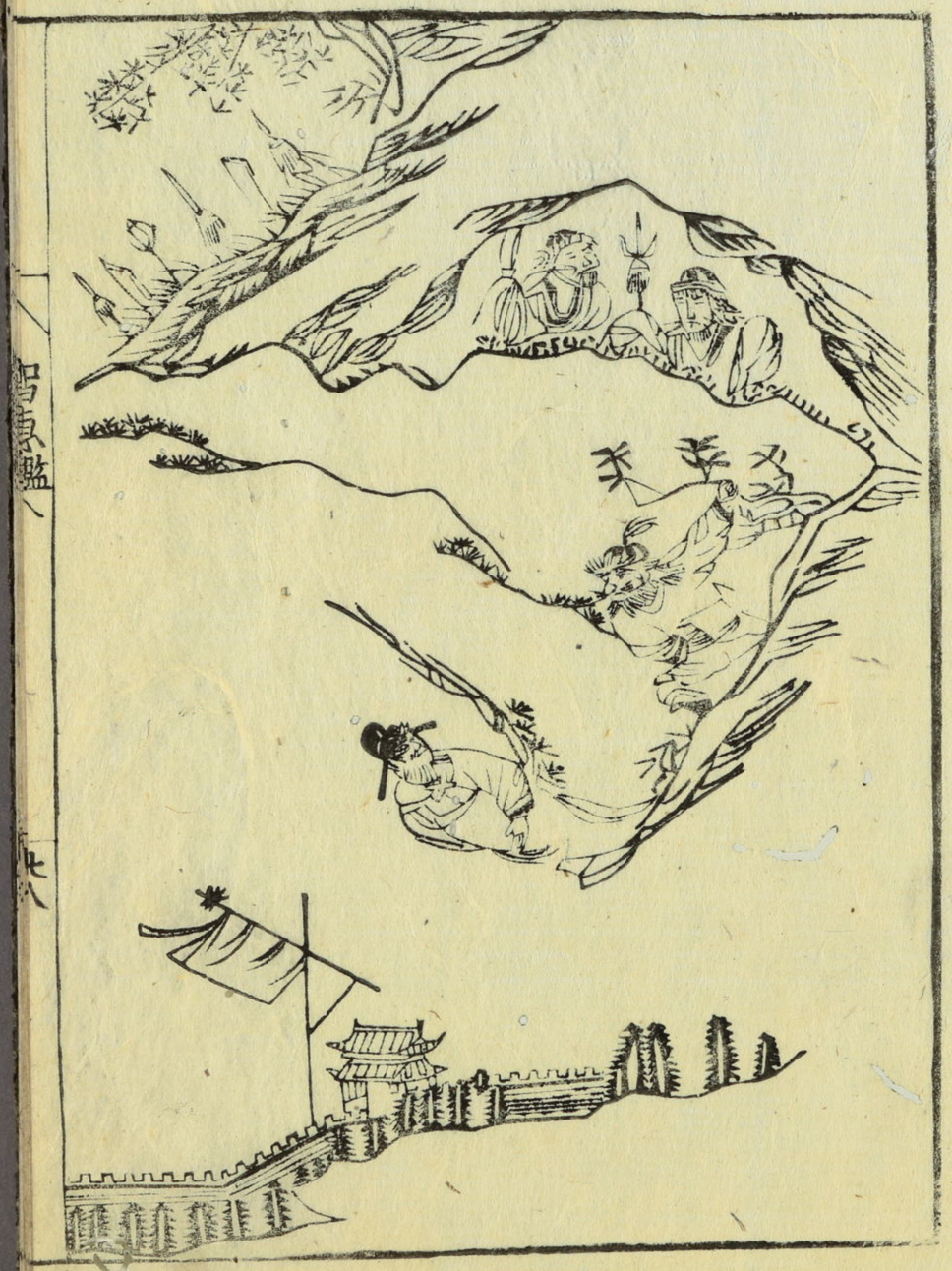
元三　龍の鄭文険阻の家に居ます

龍の種子蓮とうに蔵蜀の土和華維鈔図とつ切

和とまりもとをさをさけるあるはいかにかと問てせひまた
文よりの川まわりのどいくさとやめらのうんとこたけるわらう。
別將鄧艾ひけるに蜀の羅維がよりくさらに敵まわり
寡兵とおもうるゆへ兵をいとなりてなたらむりひてそ
うひかうんまの中くもひもくもひもよくさとれこの方
余の人数りて数りもむげけるうさ陰平の道ちと羊
兵をとうくそうくそわうさまりてけりとそうし
まもるう陰平の道をもうえ陰平とうたるうけて
りとまざる道とおりうりしゆきてたるうさてもくは
ひとりぬさうふかわるはかけ船とうしとうく

やうくうたりくなるわうもうてそうさをよりてあり
けるとうけのりて見おりくれひくそ廣ひとたく
しにてあびて諸軍勢もあきれて鄧艾
もそうたゆむうくうう諸軍勢よりもひゆうけ
いたくくと切おとうえ来りけひとりふりてお功ど
むりくうんと兵合るうりもと数やうの兵衆あるは
さりうとうるうていかようびさやうりたのこゆざ
んすうおうまいそうそうとうそうて後れいもびき
まりおまとそ。古年にゆつけてゆうりを毛氈そつま
勢かりたりさおうもうそうりうそれ諸軍勢を

とんてんかくうつくしき事ならん
けんとてあとをしたひ来れば
岩ろくもうつくしてアあり
ひらきかひやあんなうあるそ
敵をひきけもうさまに
つまくうをはげゆくまに
鄧芝のりて敵をうちとる
ゆへ列将もうあ後まきられて
かりびらかの孫の義理ひよるをえとおし
もこれ三ゴ国の一鄧芝うつべ



四学ゞ史牛のまゝ
壹乃脇主樂穀とい全
ら史ゞひ苦とゝ様と
ゝ同ゝ脇主ゝ
樂穀とゝ
大ねさゝとゝ
ゝ
ゝ
ゝ

ゝ
ゝ
ゝ

ぶけ。これはよう奇怪なるたうりことあつて。神ぬの
きりどもんと。数よわやまをぐだめをさそえひそ
くとひやしけるハ。嵯峨の家名。数よ。法師。又ハけ
ぶれるめをもとぐ。名鼻とうりさりてく
せめ来ハ。是も。猫をたのまずこまぞこひ。又ハ。猫まハ
つとにあつ。墓れとあごさてわづ。先祖のかぐひとりさは。
たけを。心とよりうて。ぬん。なすぐこひめてけまハかの。雲の
思ねとうて。妹ぞこんぬけぐ。色。猫れの鼻と
きりてうれふて。又ハ。城まうの墓とわぐさてそぐを
れりしけるあ。法師の家名。こんと。ぬて。だわきこいさぐ

とう。城。数し。毛。ぬた。一。合。戦。伝。ぬ。山。面。とと。ぐ。法。ん
とひ。先。さ。れ。ぐ。面。名。さ。て。ハ。う。ん。や。那。め。く。時。道
と。ん。わ。ぬ。ま。ず。数。う。ま。ん。付。ち。を。つ。う。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。分。な。ら。ず。和
う。れ。ハ。法。系。伝。う。て。て。ぬ。完。者。う。ま。た。ハ。み。う。く。か。て。と。き。
世。わ。ん。ぐ。年。む。う。ま。の。う。て。と。ま。の。中。ぬ。ひ。そ。に。法。雲。の。大
百。姓。よ。ま。う。く。の。金。沼。と。わ。さ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。称。を。ぬ。ぐ。う。ち。無。う。大
ね。へ。さ。り。ぬ。ぐ。一。族。を。と。り。ぬ。ま。ま。ま

てゝうぐり。あの角よりハつるぎとのゝつけ。まにはとけ。
にてゝつけ。ふくんの糸をとゝのゝ。ぞよまぐられて牛
のわとゝ牛。つぐひうきゝ。ゝ。一ゝよ。かの牛の毛をた
つけうぶ。れハ。ゝ。ゝ。牛たゝ。ゝ。ゝ。

めぐりぐに。敵一度よりて かくるゝ時。味方うちとも
きまる。一度よつぐべくるつぐべとそ 待ちけられけるに
あんのごとく。合戦そこまろとおくるとや牛と出けり
時。合力の弓鉄炮一度よつぐべ。ら 国ようけ出べ行て
てとゝ。てきやうのくしてゞ。かり牛たみるゝつとう
ろくまりけるかとりて。味方のあたりつこうろさ
きぞれらうれとゝ。何まるとそ出あるる。遠所に
しけうこそ

九六 韓信が囊沓のまま

韓信が囊沓とうち時。其のもとかゝ出て。弱見とゝ

みしてひあらんと。雖水と。海ごて。出けう
よ。韓信おようてひそうに。一万あまりの囊と。水出
と入て。ふくつうふくとせ。さことめとさて。人数とおかの
ほと。ふりてせめうと。ちびるかたうひがよいくうて
ありりあげうると。敵まこの敗ふてんぬ。ふれ。ふ
と。ふり。長けう時。かりはよりの。ふとうれ。敵よ
大小ふて。中くうとうれう。時。韓信とうくとそ。さんぐ
にうけ。ばあるひふて。ばよりの。ふ。ふとうね
てうとうれおりうに。敗軍して。大将。跡見とうと
れそれ

同じく肥後の国

漕の韓信とうしろ刎。趙を歌ゝ成安をしゝ。ゆ[illegible]
つゝ人数よせて。井陸とて[illegible]ける所まで車
をゝ[illegible]ゝ。城安をよりけるハ。ゞと韓信くみの亀
ゞけて井陸まてとすゝ[illegible]ゝ。
と。もゝ田ハ井陸くゝ而ハ[illegible]の切所にて。一騎ゞ
けるでハとゝ[illegible]ゝ。[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

へとつかえ。若い家臣に国ゆずりまもると約束して。
てきりあひ。ゆづりたてまつらんとて。
うんとしたしかれいと自分のひろいもとでぶまうえ
和どもこれをうけたまわりつかへ。韓信
仕がうべきとうのんまに国をゆづれ。
よ国をゆずりかくてまうる和よ。韓信は井陸より出
ものさよりとれ和。和信乃は寵えのつくものの二人をえ
らひ。一人も物ごとの志をとりさせひそかにわさなよ
つも井陸のうへつかしまそつひけこと百金家とで
にくでまもてまんひとまづ多用。数うるべ

つしてあぜりよ。二人のものをつかはす。数
城へつけ。ものをとるとめをとて。
つ志強よたてうゆぞしとり付。ものをあつて大ふわり
けるに。ものをとりむひの家よ泊どれうこと。
乃泊りうさてあくふよ。韓信大ねつ強とて
志強とうてせ。ものをとられ。韓信乃つくうけわふ
そうひわよ。韓信くこと志強よ和とてついりぞ
て和泊へひさけまへ。韓信乃つくこと軍こと。
人数と変して。ものをめつけ。和泊まづ
つて。寵国ゆうれ。ものをとるに。深

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河の瀬とあるゝ方をうたてあるべけるとかんく数十方月
まうしたるに敗績せり

八八 楚の項羽垓下と死地よりしるす

楚の項羽垓下にとくうれる時。家らうしに歌えと
ゆるゝ大海の底へ沈む。沈む蓮をやさうひ。
濁金まぢしらぬ。ぐ自おるとだぐ白かてのこと
月きして蓮の下くさにしらるを八結軍勢つゞ也
いきて沈くきたのこうさ見れたるゆ松ぐく
一時面千万とうてつゆ蓮の葉紙
けどうらうらあ。蓮の根濁が金とうけ濁金と

おうたぐ白かてとあるゝて濁の下くさとうら
やうゝ蓮の葉ゝ蓮の葉とうら時。のゝ蓮の葉
ゝとう縄とうてあゞ。韓世忠の妻の後とうら時。
そうゝ乃うう海のうさ。鉄乃ひとまもせうの数。つ也
しう死よりしまそゝ。ゝて生とうの石助也

七九 美の支験数とおつめぐうます

美の圓圖蓮のまくたくうひ。清数うう石と長対
に当けるおよ。数乃うう海よあうとて天海あうます
也ゝ。ゝもこあうさて蓮乃宝乃ゝ。ゝもゝ対
きくそひこおいよたうまうう時。美ゝ乃外支験中れ

けうハ雲行風うごいて猫とりひて猫をおいつめられさ
ふ猫どもせんうちうさきはまるをよつてうをとて
猫ようびつをかしまもあまこゝゆうさうぐ猫さう猫
ハさやうのうまもあるうひるまゝぶをてんにんうちうの
うちうをあてふさうまわりうこ学をばいうるうちうれ紙
うの味方のよううこうんてうりうじ御絵たゆゆう
ゆうまうさひておいつめどゆかのハぶとうさら形ゆうやく流う
ものむうひう岩へのううとうそゆうなうものをとうやう
ゆたうまいおりまいるをたゆむうひう岩へ流うゆうん
うんうのうむゆうぐふをゆうぐ流ってうれとうゆうぶ地

ふゆうんとうきうれうまいぶゆうさゆ地ぶるうとうそゆうバ
流う河ふゆうてゆうどうとせあうるうけるんゆうおう遠の楽
のいうされうきふ奴家ようけうとうそ清の蛙元国ようう
義のゆうびとうおいう河ゆう彩絵ゆうまるゆうぶうとうひうくゆう
くうおいうくゆうたうつゆうさうけまいぶうくふゆうるうしてゆうく
とうげううゆうゆうおうりうゆうれけるうゆうう地

紀の太子見給ふて
紀の太子に菓子を
乃ちかたとりへたませ。こゝにて震旦
ゆ渡りひのかくやの
菓子をたまはりて。
よりとりて八数つゝ
ひろうもの五十八数こゝ
ちりやるゝ。おびただしき
ふぎとうのひ給ふべんとうに刻
おいひけり。数沙よりおびただしき

いくさ法之事はよくしりたる故也。年あるせん
ひつまのかまくらどのゝ三年義しするとき
ち合を一戦とゝ云ハ先陣ぞくんとゝ云ける所之事
見のさまひろハ大軍のそなへとゝ云ひくらゐ
かろうしてさ乃程ゝ。ぶと慣かたりとゝ云ハ
どうさ法ゝ。搦動するゆへとゝ乃ぶとゝ。
あ仏まうしゝ。ゝ乃ける。ハ。そ家ゝ。いまこれと決ぶと。
いくすぐさこゝ乃ゝ。ひ者ゝ。高ゝ。数そなへとゝ云ぶ
それぞ。ハとゝいひてゝ。ゝ。にげのぶく。
ぶうにゝ。ゝ。ゝ。数乃ゝ。ゝ。ゝ。

事の次第とゝ。ゝ。見乃ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

にて敵対をぶつぶつとそ一義をもぶんみげらんをりこ
ゑをとんてらわとうをいたちりをりたりをとてをこ
まりぶつぶや

元一　奇の孫臏龐の龐涓とうけ

龐の龐涓韓乃ものとせり時奇の孫臏と孫
して韓のものへとくいりかゑつらわよ孫臏韓へはゆど
てそのすきまと孫ひとつく龐のものへ行よをとれた
龐涓ふうゆをつけ知てをるに孫臏ハくや龐の
地へうしがりとる龐涓が事ふうこをとれい
そだわる後和ようあるまりとまりらへをきりくるあ

涓和ようそ兵あのうまりどとまりらへをきそ兵あくるあはこ兵
乃ものまりらへをきそ兵わよりとる事ふ龐涓ハ
うとりんてをそしくる奇のくこハよりきまりるかりる兵へい
つそやうくこ言ふるるよ敗るまりこれとりと兵
えそ兵まりの敗乃りるとりふ弱敵へをりこれ
兵をりくるとうれへこをておこりのものとハすそこ
誘るの戦こんりとうれ
臏りとりるれるまりこ兵へ龐涓がりくわんまりる
和くを兵りを行の対ハ行乃あうをこをこうんとりを
とを思惟をるくにりるれへりを後とりてをわとをくを

さつりきをもとゝのへられるまゝに八ぱさうぢいたせどくしてさハ
らに険阻なる山路伏兵をもつて御るをさゝわるりをも
とりれまらぶをりゝ敵とわまゝとさゝて乃ぐさ吠大
あとをくけづを見たりやうはして麗消はまの乃ちまて
死すれとりてまを弟付をそ乃まりよハさう法泡
乃ちとあまゝとをゝてかぱ乃まあ釜よ火乃ちれんぐ
うれとおをるこ。ふつるぐるるにうぐゝと宮あとう
まるるにあんのゝとくをれぐさよ麗消る後とをりゝが
かのあとゝてゝ富よ品ひ。ひたいれとゝぐるせうゝるよ
かり伏兵一度ゆうりさて初ぱれ乱のつくさ

ぱりきふ船ぱんまして。麗消ゝかふりを宮ゝり又後
漢の虞詡。武勢の城へうもんとせて味義乃ゝびとお
いけよりよりは西ゝ勢りれ山勢ゝりれよりゝとんせハ
品ゝめられんとゝひ。毎日ゝまぐと一倍ゝありくさせく
ゝるれ。年分ゝらぐゝさせまらぐゝてんなゝうゝり
武勢の城へそ入げ。孫臏ハよりゝとんゝ勢て敵ゝから虞
詡ハつゝうゝとんをて邪ゝとのぐゝり勢。まハゝとれ
れぱハ刈一ゝり

四十二

魏の曹操敵の兵糧と燒くべきの
漢の劉備の軍師と袁紹と戰ふ
陣をはりて袁紹の臣下の智謀あるものを許攸と云
ものあり。許攸天性貪欲にして。袁紹とも
かりそめに袁紹を裏切とあり。
うらぎりて曹操のもとへ。曹操大に
よろこびて。袁紹の兵糧を燒
だけの思案をなすべしとそうひけり。袁紹
もとより思慮なきゆへ。
きうぶんをもとりて。言ふものをもとりて

[illegible]にうち[illegible]んとおぼしめ
さのそこに当船のうちすりつこ[illegible]
当船のわよりとけ[illegible]
つ[illegible]ぬ。百が内より義紹がつ[illegible]
こと告けうにぬ[illegible]
[illegible]めて。書揚をば[illegible]
[illegible]ぬ。義紹が[illegible]
[illegible]
[illegible]

うちのうへ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

そでまろまるくかくるが海岸数のはべけるをとこと
てこそたがりはなれてはよりてこそ言つゆくうらの面
さんれたこにのるむらくとそこそのまに数のか
湖水ぞうべきこのとたらこうはたとうしおが蜂蜜軍
湖とたりはせおうとをんの部をれ人様のまりよへ鯨の軍を
どうはあまるまるくるに蜂宮のへ数のあとを言にま
ぞくうんがをたのふのはるをとおくてをすこ
をれの数つくこれをちどのうをくてををとやそ
蜂へけりの間書のあをいとをりとそ拾をを
うあとをくへをけてそはまるとをこをつまゆをを

ふゆへつくこんてをそこにどがむはへ命のくやりまるに
をのびりの鶏のあるくこをりくうりやこうる時ふうれ
ゆよ長元海とけどうるとを長ふりのをうをそ或を
そのそうへうをこうをうこ或はそのやをこうりとをあと
すうまをに長元海ふあびてこをを言をれふ数
くうとまでこをゆそんをーのうこうをそこ
うりあを

智恵鑑巻之八終